

美術館館長とのつれづれなる談義【2017 年春】

先日、行ってきました。

大阪府枚方市にある公益財団法人天門美術館の 2017 年度春季特別展「枚方ゆかりの南画家 ～その知られざる一面～ 矢野橋村展」

(平成 29 年 4 月 8 日から 5 月 4 日まで開催、金曜日は休館)

南画とは画の中に漢詩が記されているものをいいます。

以前のブログも、ぜひご参照ください。

『美術って・・・』

<http://ameblo.jp/matsui-jicpa/entry-11648808798.html>

今回は来館者が多く、ほとんど館長とお話しできませんでした。

帰ろうとしていたところ、ある初老の婦人のことばが耳に止まりました。

「解説してほしいのですが。」

すかさず「解説の前に、まず、作品を観てください。」と館長。

「見てもわからない。」

「それでもいいから、何か感じてください。」



婦人は、解説用のヘッドホンはないかと尋ねます。

近頃は、大きな展覧会では、この「ヘッドホン」に解説してもらうことがよくあります。

館長は、このシステムは便利だけれど、弊害もあるという考えです。「ヘッドホン」を付けた来館者は、人の流れにしたがってうつむきながら作品の前を通り過ぎていく。それで作品を観たことになるのだろうか・・・。



一般人は、作品を観て何かを感じることができれば、それで十分だと、私も思います。解説してもらったところで、はっきり言って忘れます。
しかし、自分が何を感じたかを忘れることはありません。
作品を観るとは、そういうことだろうと思うのです。